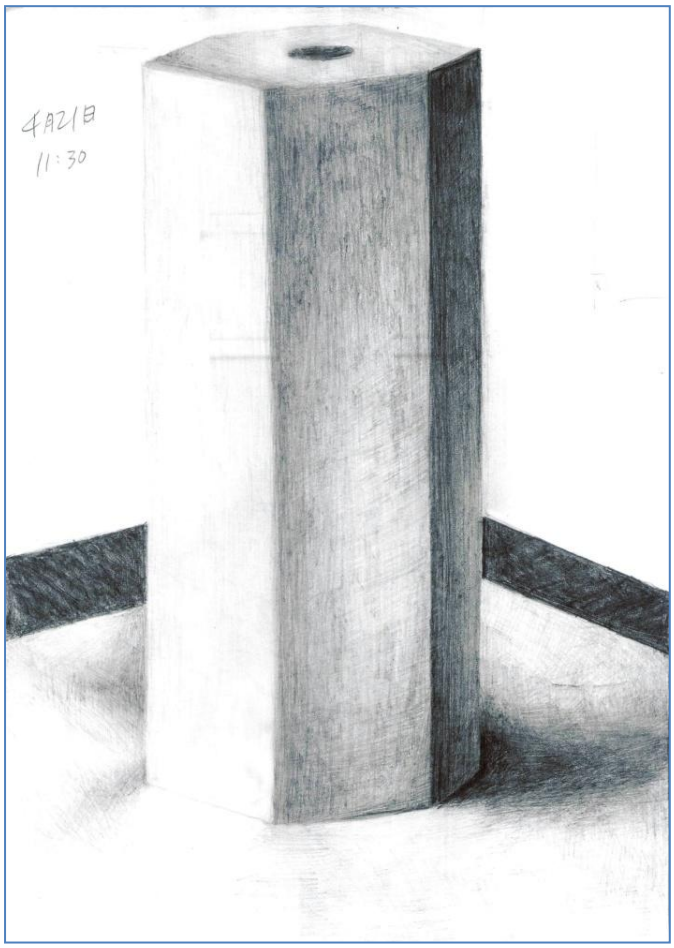
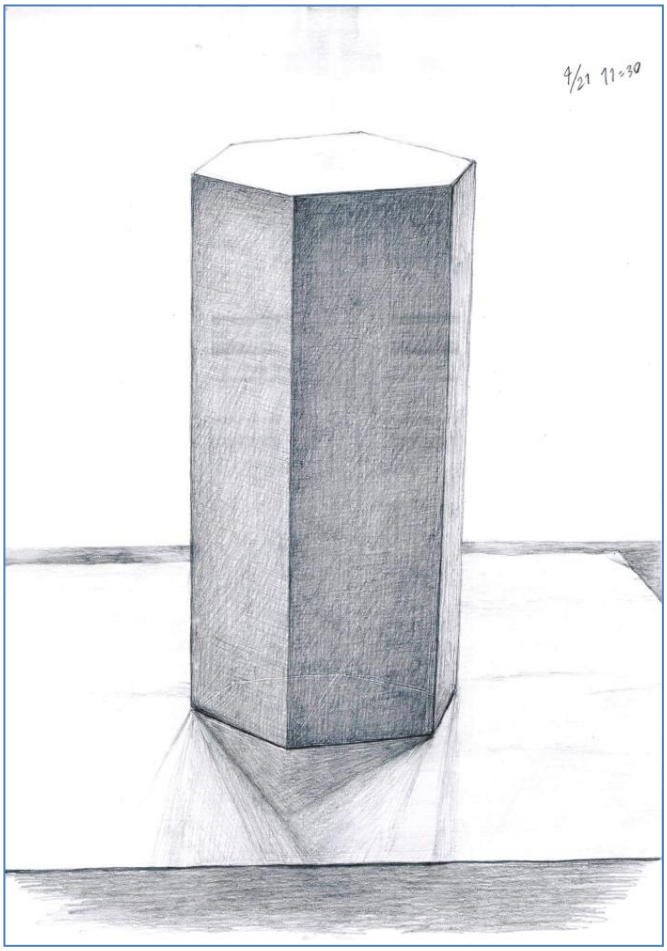
豊栄ギャラリー（１２）

平成 28 年 7 月 27 日(水)

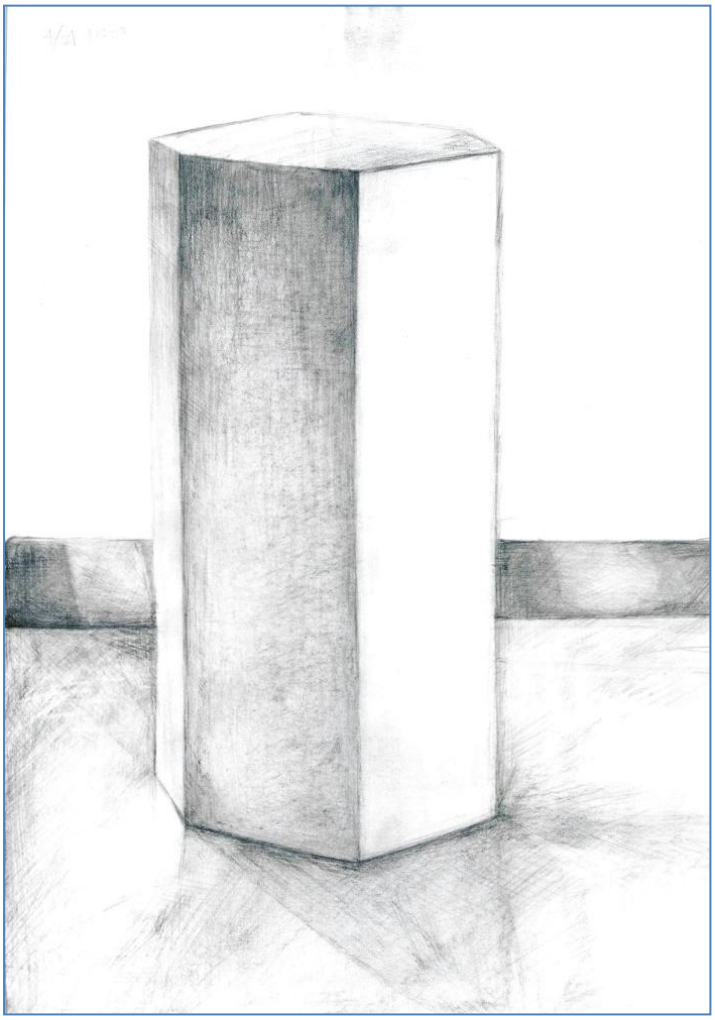
お待たせいたしました、今年度初の豊高ギャラリー（12 回目）をご紹介します。今年度から第２美術室（デッサンや油絵に使う部屋）の運用がはじまりました。そこで制作された芸術コース（美術Ⅱ）の生徒の作品です。制作が２年生５月ですので、生徒達の今後の伸びに期待しています。



私は普段見ている物体がどのように光を反射し、どこに影ができているのかなどは考えたこともありませんでした。
ですが、この授業を通して光や影のことを意識するようになりました。

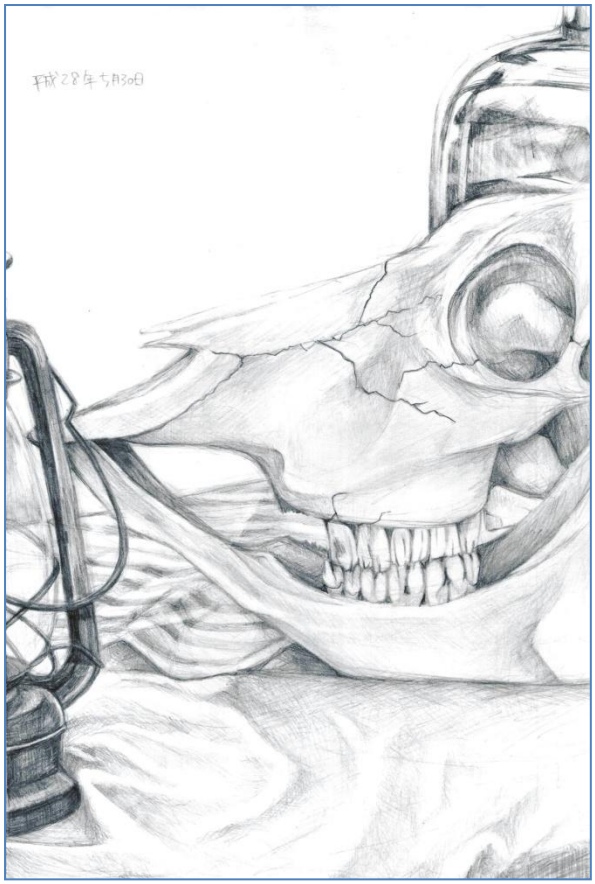


六角柱は思っていたより描くのが難しく形のあたりをとるのが大変でした。明暗をつけるときはハッチングという技法で丁寧に描き、かなり立体感が出たと思います。とても疲れました。

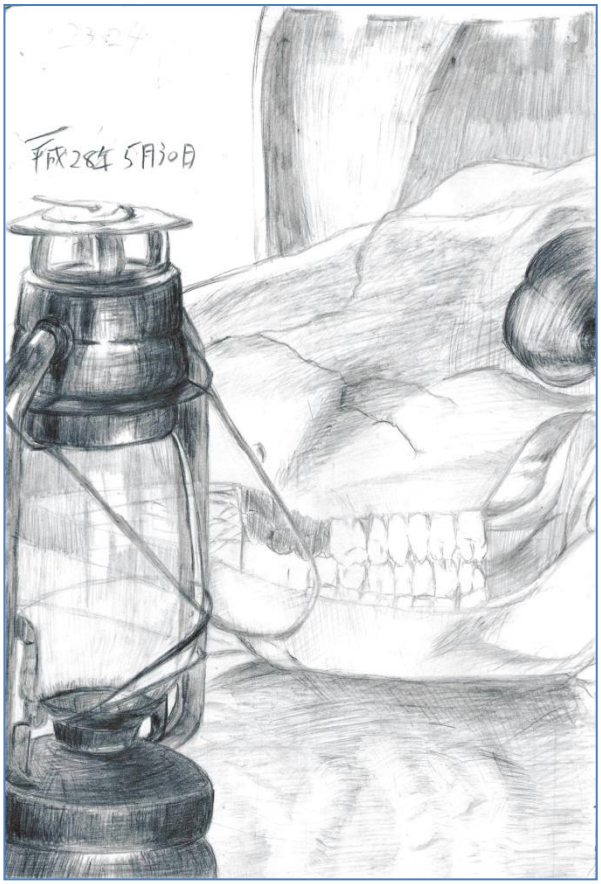


ちゃんとしたデッサンをしたのはこれが初めてでした。何もないただの平面を描くことは思った以上に難しく、何よりめんどくさくて、すぐ飽きました。
完成した時は画力が上がった！と思っていましたが、改めて見直すといろいろなところが気になります。

もう少し時間があれば、と思わないでもないですが、決められた時間内で描き上げた作品としては、まあ良かったかと思います。ただ改めて見直すとランプの下の台の歪みや後ろのガラスの荒さなどが目立って気になります。



六角柱に比べて細かいところまで書き込めるので楽しかったです。その分、光の当たり方とか影のでき方とか複雑で難しかったけど、やりがいがありました。質感の出し方が難しく、骨のゴリゴリ感、金属、ガラス、布の違いをあまり出せなかったと思います。勉強になりました。



描いていて分かったことは、一部のバランスが崩れただけで、絵全体が崩れて世界が変わってしまう。だから少しでも形を適当に描いてしまうことは、描いている場所を違うものにしてしまうことなんだと気づかされました。